

次世代と共に生物多様性評価に挑戦する「TASUKI -襷- Project」第二期を開始 ～調査フィールドを従来の水域から陸域にも拡大～



株式会社フォーカスシステムズは、株式会社リバネス主催の下、パートナー各者と共同で、2026年5月9日より次世代と共に生物多様性評価に挑戦する「TASUKI-襷-Project」の第二期（以下、「本プロジェクト」）を開始しました。

【プロジェクト概要】

世界自然保護基金（WWF）によれば、過去50年間で世界の生物多様性の69%が失われており*1、その経済的損失は44兆ドルにも達すると試算されています*2。これを受けて、2030年までに国土の30%以上を保全する国際目標（30by30：サーティ・バイ・サーティ）*3等の取組みが進められており、ネイチャーポジティブ*4の実現に向けた動きが加速しています。

一方で、生物多様性の評価・管理手法は確立されておらず、実環境での検証や、持続的な取組みを担う次世代人材の育成が課題となっています。

そこで本プロジェクトでは、次世代である中高生が環境DNA技術*5や音分析技術*6を活用し、河川や森林の生物多様性評価に挑戦します。

また、本調査・研究活動を通して、自然環境と人間社会のつながりの理解を深めながら、自然の豊かさに気づき、行動することのできる人材育成を目指します。

2024年5月から2026年3月までに実施した第1期活動では、東京都の多摩川流域、滋賀県の琵琶湖周囲の計4校が、環境DNA分析を用いた水域調査を実施し、その結果は地元の内水面漁業共同組合や国内外の同世代の中高生に報告されました。

今回より始動する第二期では、活動フィールドを水域から陸域にも広げ、関東エリアと延岡エリアの計4校が環境DNA分析を用いた河川の生物多様性評価を行い、関東エリアの2校が音分析評価を用いた森林の生物多様性評価を行います。

プロジェクト名称	TASUKI-櫻-Project
コンセプト	地球と生きる、豊かさをつなぐ
研究期間	2026年5月～2027年12月
主催	株式会社リバネス
パートナー	旭有機材株式会社、株式会社フォーカスシステムズ
テクノロジーパートナー	ハイラブル株式会社、株式会社フィッシュパス、福井県立大学 地域連携センター、龍谷大学 生物多様性科学研究センター
後援	延岡市・延岡市教育委員会
プロジェクト参画校	浦和実業学園高等学校、延岡市立北川中学校、東京都立立川高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、宮崎県立延岡高等学校、早稲田大学本庄高等学院
中間成果発表	サイエンスキャスルワールド2026 2026年12月12日（土）（予定）

※WEBサイト：[TASUKI-櫻-Project](#)

【第二期キックオフイベント・交流会の様子】



【構成機関からのコメント】

主催

株式会社リバネス

生物多様性の維持向上といった地球規模の課題に対し、一社単独の取り組みで解決に至ることは困難です。リバネスは企業、ベンチャー、大学等が連合体となり、チームとなって課題解決に取り組む仕組みが重要と考えます。また、豊かな地球を未来へと継承していくためには、次世代を仲間に巻き込むことも不可欠でしょう。本プロジェクトを通して次世代のみなさんと共に大学発のテクノロジーを社会に実装させるまでのプロセスを検証し、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」ための仕組みづくりを進めてまいります。

パートナー

旭有機材株式会社

櫛プロジェクトは、延岡の自然を教室に変える取り組みです。当社は産官学連携のハブとして、学校・自治体・大学の皆さまと力を合わせ、学びと地域の好循環をつくってまいります。今日の学びが、未来の延岡を担う人材を育てると信じています。

株式会社フォーカスシステムズ

深刻な社会課題解決に向け、ITを何と組み合わせるかのアイデアが重要だと私たちは考えます。第二期ではフィールドを水域から陸域へ拡大し、音分析等の新技術を融合させます。領域の拡張により多角的な評価が可能となり、自然環境の可視化という価値創出に繋がると確信しています。次世代の自由な発想と企業の技術が一つになり、新たな発見が地球の未来を守る力となることを期待しています。

テクノロジーパートナー

ハイラブル株式会社

当社はカエルの合唱研究をルーツとして、コア技術の音環境分析を活用した人の会話と生物の音声の分析事業を行っています。フォーカスシステムズ様、リバネス様とは動物と話すことを目指すプロジェクト・ドリトルを進めてまいりました。当社が開発したKoeTurriを本プロジェクトで活かせることを楽しみにしています。水圏と陸域をまたぐカエルのように、中高生の皆さんと多様な生物をより深く知る取り組みを行っていきます。

株式会社フィッシュパス

私たちフィッシュパスは、川がつなぐ人と地域の未来のために、全国の漁協と連携して遊魚券のデジタル化を進めています。漁協との新たな挑戦として、環境DNAを用いて川に生息する魚類相を明らかにし、漁協の水産資源保護や生物多様性保全のサービスを提供します。このプロジェクトを通じて、皆さんが水辺の未来を支える一翼を担うチームになることを期待しています。

福井県立大学 地域連携センター

私たちの提供する環境DNA分析センターは、河川や湖沼に生息する多様な生物種の特異性と分析を可能にし、これまで未知だった生態系のデータを明らかにします。この技術を活用することで、実際の科学研究プロセスを経験し、生物多様性の重要性についての深い理解を得ることができます。さらに、我々の市場分析とアドバイスが、このプロジェクトの成果を社会に広く展開し、具体的な環境保全策へと繋がることを期待しています。

龍谷大学 生物多様性科学研究センター

本学が長年開発と社会実装に取り組んできた環境DNA分析の技術が、中高生の皆さんのワクワクに貢献できることを大変楽しみにしています。水に入って生き物を直接観察するのはとても興奮することですが、DNA分析の技術を駆使して「触らずに情報を得る」というアプローチでもまた違った知的好奇心が湧いてくると思います。一緒に水中を科学捜査しましょう！

後援

延岡市・延岡市教育委員会

「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」の豊かな山々や清流に囲まれた延岡市立北川中学校では、「100年先まで残したい豊かな北川の自然」と位置づけ、ESDに係る体験的な学習に取り組んでいます。これらの学習に本プロジェクトの化学的調査やデータの考察の体験が加わることにより生徒一人一人の眼が更に輝きを増すことを期待しています。周りの仲間を巻き込み、延岡の豊かな自然を未来に継承していく延岡市民になってください。

活動の様子は随時ウェブサイトで開催してまいります。

※WEBサイト：[TASUKI -櫻- Project](#)

*1世界自然保護基金（WWF）：Living Planet Report：生きている地球レポート2020

*2世界経済フォーラム（WEF）：The Future of Nature and Business（2020）

*32030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる（ネイチャーポジティブ）というゴールに向け、陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標

*4自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること

*5環境DNA技術

生物を捕獲することなく、水や土等の環境媒体に含まれているDNA（環境DNA）の情報を基に、そこに生息する種の分布や多様性、量を推定する分析手法。

*6音分析技術

KoeTurriは防水マイクアレイで鳥・カエル・虫等の声を24時間連続でクラウドに送信し、AIと信号処理技術で生物の種類と聞こえた方向を自動で記録する技術で、モニタリングやサイネージに使われています。

【本件に対するお問い合わせ先】

株式会社フォーカスシステムズ

コーポレートマネジメント本部 IR・広報部

E-MAIL：koho@focus-s.com

TEL：03-5421-7790